

玉華司鎮宅符

解説・効験・使用方法



正一道教団は漢代に成立したため、この符の構成には漢代の世界観である天・人・地の「三才」思想が反映され、上・中・下の三部に分けられる。

「玉華司鎮宅符」は、幅広く用いられる家内安全の符である。符の構造は、上部の三台により法力と効験が斗府の三台からもたらされることを示し、中部の玉華司法船により元神（魂）などが天から地へ降臨する働きを抽象的に示し、下部の王天罡により守護を掌る神々を示す。

斗府

道教の言い伝えに、星が降って人として生まれたとするものが多く見られるが、人の生まれを星宿と関連付ける思想の源は古代中国に見ることができる。『詩経』小雅「小弁」に、「天の我を生ずるも、我が辰は安くに在る（天が私を生んだというが、私の星はどこにあるのか）」とあり、王充の『論衡』命義に、人の寿命と貴賤の差異は全て星の貴賤と大小によって生じたものとあり、葛洪の『抱朴子』塞難に、人は星宿の働きによって生命を授かるとあるように、人の生命と星宿には関連があるとされた。

正一道教団は、斗府が人の生死と元神の働きを掌るとする。また、斗府は東・南・西・北・中の五斗の星宿を統括しているとされ、「五斗米道」とも称された教団草創当時の入門者は五斗の米を納めて五斗の星宿を祀ることがしきたりとされた。これは五斗の星々が人の生命を掌り、米は生活に必要な食料であることから、道教が生命を重視する宗教であることを示すために行われた。道教が養生を重んじ、長生術を修

め、生命に害を為す妖魔や邪鬼の駆除に長けていることはよく知られている。斗府への祈願は正一道教団を発祥としており、斗府に元神の繁栄を祈願する科儀として礼斗法会有る。この斗府の中でも特に「三台」は人の元神を掌る星宿として重視される。

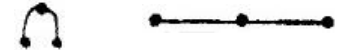


三台

『史記』天官書に記されている三台の星象は、魁星の下に二つずつ並んでいる六つの星とされ、『史記索隱』に、上代・中台・下台の各部に二星あるとし、星図では次のように表される。



符において三台は星図を簡素にした様式で描かれ、形状にも符に合わせた変化が見られる。



この符ではさらに傘（華蓋）の形に変化しているとはいえ、三台に関わる符であることから、道士は符を書く時に三台の咒語を唱える。

道教では三台星君として上台虚精開徳星君・中台六淳司空星君・下台曲生司禄星君が住み、それぞれ人の「出生」「成長」「守護」を掌るとする。新生児の元神はみな三台からこの世に降り授けられたものである。

玉華司



玉華司は斗府に属する神々の集まりで、三台から生じた元神を天と人との間で送り届ける役目を持ち、中でも灶神（かまどの神）がよく知られている。『礼記』曲礼下に、天子・

諸侯・大夫はみな五祀を祭るとあり、鄭元の注に殷朝の祭祀制度であると説くように、五祀は古代中国から祭祀の対象とされ、灶神はその一つであった。古式では三個の石を鼎の足の配置(◊)に並べて灶神の象徴とし、各家庭では農歴12月24日に天へ送り、翌年1月4日に天から迎える送神・迎神の儀式が行われた。『抱朴子』微旨に、天地には人の過ちを裁く神々があり、灶神が家族の平生の善行・悪行を記録し、晦日の夜に天へ昇って報告するとあり、特に家の福寿・盛衰に影響を与える神とされ、現在でも盛んに祀られている。

法船

玉華司の法船は斗府の神々・元神・福寿を運んで人々に降す役割を持つ。正一道教団は、農歴1月4日に年内に生まれる予定の人々の元神が、武神の庇護のもと法船に乗って天から降るとする。「玉華司」の三字は法船の帆を象り、符の両側の曲線部()は、法船が天から段々と降りて来る様子表現している。また、()のように変形して描かれることがある。



需卦

法船の上に易の坎卦が描かれている。☵は法船の周囲の雲を表すと共に、半時計周りの円を三つ連ねることで三つの陽、すなわち易の乾卦を示す。上の坎卦と下の乾卦を合わせると水天需の卦となる。その象に、「雲の天に昇るは需なり。君子は以て飲食宴樂す。」とあり、序卦に「需は飲食の道なり。」とある。法船に水天需の卦が描かれているのは、生まれる人々の元神

と共に、彼らがこの世に生きていく上で必要となる食禄(福寿)が積まれていることを示す。このように、鎮宅符には斗符の神々が天から福寿を降し、新生児の元神が天の恵みを備えて生まれることで、家に福德をもたらすよう願う意味が含まれている。

王天罡



王(王)・天(天)・罡(罡)の複合字である。「罡」は、四方遍在を意味する「四」と正炁を意味する「正」から成り、

天の正炁、すなわち北極四天(東方蒼天・南方丹天・西方皓天・北方玄天)の正気を表す。北極四天は四聖(天蓬・天猷・翊聖・佑聖)によって統率され、中でも佑聖は「真武」とも称され、玄天上帝(玄武)として知られる。『太上九天延祥滌厄四聖妙経』に、四聖は三界の妖邪を統率し、人間界に人々の善行を見て福德を賜い、天下を保ち、あらゆる迷いを無くし、諸悪を絶ち、福寿を延ばすとある。四聖は諸々の天君と神将・武神を統括する。毎年、神将が二武神を率い、玉華司の法船を守護して天から降る。



て天から降る。



「陽平治都功印」・「天師印」

天師

符の印章は非常に重要で、印章の無い、或いは誤った印章を用いた符に効験は無い。正一道教団が主に用いる印章は「陽

平治都功印」と「天師印」で、共に祖天師の功績に由来する。「治」は祖天師が正一道教団を創設した際に設けた教区を指し、当初は二十四節氣に基づいて二十四の治が設けられ、後に二十八治へと拡大した。中でも陽平治は治の筆頭とされて正一道と天師の拠点となった。治は正一道の教区を示すと共に管理・秩序・文明の意味があり、『三洞珠囊』は『玄都律』を引用し、性・命・魂・神の属する場所とする。太上老君は祖天師に陽平治の統治を命じ、各治に教団幹部を「都功」として派遣した。したがって、「陽平治都功」は陽平治の統治者である祖天師の職名であると共に、祖天師自身と宗教的権力の象徴でもある。符にこれらの印章を用いることで、天師が効験を付与したことを示している。

「玉華司鎮宅符」効験と使用方法

この符の効験は三台の「生」「養」「護」に由来する。具体的には、(1) 魔を調伏し魑魅魍魎の侵入を防ぐ魔除け (2) 一家の福祿寿・安寧・健康を願う家内安全である。なお、家族の平生の善行・悪行を記録して天に報告する灶神に関する符であることから、親子・兄弟が和し、善行を率先する家庭でより強い効験を発揮する。

家族が集まるリビングや台所に貼り、個室には貼らないこと。符を使わなくなった時は、灶神の送神の日にあたる旧暦12月24日に金紙と共に焚く。

2023/03/22 版

正一嗣漢張天師府
第六十五代天師張意將
彰化縣芬園鄉彰南路五段888號
彰化 TEL:049-2511199 台北 TEL:02-28366519
網址: www.cts65.org

